

# 令和6年度 支笏湖・定山溪地区自然体験活動推進協議会 概要

## 1. 各会議の開催概要、指標目標の達成状況等

### 1-1. 開催経緯

2017（平成29）年度に推進協議会が設置されてから2024（令和6年）までの会議開催状況をまとめるとともに、推進プログラムの概要と設置要綱を示した。

### 1-2. 会議概要

2024（令和6）年度は、以下、4つの会議を開催した。

会議名	日時	場所	議事内容
個別課題に関する意見交換会	2024(令和6)年 12月5日 13:30~15:30	札幌市教育文化会館	(1) 個別課題に関する情報共有 ・登山道について ・水辺利用について (2) 個別課題に関する意見交換
定山溪地区部会	2024(令和6)年 12月17日 14:00~16:00	北農健保会館 オンライン会議室 併設(支笏湖地区 部会構成員傍聴)	(1) 推進プログラムについて (2) 推進プログラムの指標目標値の達成状況(2023年度) (3) 推進プログラムの取組状況について (4) 推進プログラムの新たな指標について
支笏湖地区部会	2025(令和7)年 1月17日 13:30~15:30	千歳アルカディアプラザ オンライン会議室 併設	(1) 推進プログラムについて (2) 推進プログラムの指標目標値の達成状況(2023年度) (3) 推進プログラムの取組状況について (4) 推進プログラムの新たな指標について
全体会	2025(令和7)年 2月18日 13:30~15:30	北農健保会館 オンライン会議室 併設	(1) 推進プログラムの検討経緯について (2) 推進プログラムの指標目標値の達成状況(2023年度) (3) 推進プログラムの取組(2024年度)について (4) 推進プログラムの取組(2025年度以降)について (5) 推進プログラムの改訂方針とスケジュールについて (6) 情報提供:北海道登別洞爺広域観光圏協議会の取組

「個別課題に関する意見交換会」では、支笏湖・定山溪の各地区の登山道の概況や利用状況のほか、今年度開通した札幌岳空沼岳縦走路の経過報告、ほかに登山道の管理責任について、また、定山溪地区で開催された豊平川周辺利用に関するワークショップの概要、支笏湖での受益者負担に関する取組の経過等について共有し、構成員や山岳関係者による意見交換を行なった。

定山溪地区及び支笏湖地区の「部会」では、推進プログラムの指標目標値の達成状況や各構成員による2024(令和6)年度の取組の実施状況、2025(令和7)年度に向けた取組内容について共有した。また、2025(令和7)年度の推進プログラムの改訂を見据え、新たな指標目標案を示した。なお、今年度の部会では、他地区の構成員等による傍聴も可能とし、定山溪地区部会で支笏湖地区部会構成員が傍聴参加した。

2月に開催した「全体会」では、2025(令和7)年度に向けた取組内容について共有し、来年度の推進プログラム改訂に向けたスケジュールについて確認した。また、昨年度に引き続き、「北海道登別洞爺広域観光圏協議会」（以下、観光圏協議会と記す）事務局の登別市担当者より今年度の観光動向やオーバーツーリズム対策の取組について共有がなされた。

### 1-3. 自然体験活動推進プログラムの指標目標値の達成状況について

支笏湖地区および定山溪地区の指標目標値の達成状況を以下に示した。

#### 支笏湖地区：

年度 または	指標		宿泊客延べ数 (人泊)		日帰り利用者数 (人)		季節変化 (最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数)			訪日外国人 旅行者数 (人)		訪日外国人 宿泊客延べ数 (人泊)	
	目標値	達成率	目標値	達成率	最少月/最多月	目標値	達成率	目標値	達成率	目標値	達成率		
2019年度 または2019年	157,000		913,000		最少月/最多月	50		40,000		27,000			
2020年度 または2020年	115,617	73.6%	353,547	38.7%	5月/10月	9	18.3%	-	-	968	3.6%		
2021年度 または2021年	105,223	67.0%	322,693	35.3%	6月/12月	22	43.6%	-	-	24	0.1%		
2022年度 または2022年	150,300	95.7%	500,700	54.8%	4月/1月	29	57.6%	※4,184	※10.5%	9,491	35.2%		
2023年度 または2023年	153,600	97.8%	583,000	63.9%	4月/1月	30	59.6%	18,978	47.4%	24,986	92.5%		

※2022年7-12月の下半期の推計値のため、達成率は参考値。  
データ提供：1,2,5は千歳市提供、4は環境省提供、3は1のデータより算出

#### 定山溪地区：

年度 または	指標		宿泊客延べ数 (人泊)		日帰り利用者数 (人)		季節変化 (最少月宿泊客延べ数/ 最多月宿泊客延べ数)			訪日外国人 旅行者数 (人)		訪日外国人 宿泊客延べ数 (人泊)	
	目標値	達成率	目標値	達成率	最少月/最多月	目標値	達成率	目標値	達成率	目標値	達成率		
2019年度 または2019年	1,138,000		419,000		最少月/最多月	70		131,000		209,000			
2020年度 または2020年	361,334	31.8%	242,721	57.9%	5月/10月	15	21.3%	-	-	35	0.0%		
2021年度 または2021年	394,487	34.7%	268,238	64.0%	6月/12月	17	23.7%	-	-	32	0.0%		
2022年度 または2022年	759,880	66.8%	358,314	85.5%	4月/1月	57	80.9%	※14,149	※10.8%	28,777	13.8%		
2023年度 または2023年	920,679	80.9%	378,056	90.2%	4月/1月	49	70.7%	117,383	89.6%	40,370	19.3%		

※2022年7-12月の下半期の推計値のため、達成率は参考値。  
データ提供：1,2,5は札幌市提供、4は環境省提供、3は1のデータより算出

#### <支笏湖地区>

- 2023年度は、宿泊客延べ数、外国人宿泊客延べ数が目標値(2019年度)の9割を超える回復となった。日帰り利用者数は、2019年度目標値の約6割(約64%)にとどまった。
- 宿泊客の季節変化(最少月と最多月の比)の目標達成率は約6割となった。
- 訪日外国人旅行者数は2019年度目標値の47.4%であった。一方、訪日外国人宿泊客延べ数の達成率は9割を超え、国際線乗降客数が2019年比約75%であったことから、早い回復となっている。

#### <定山溪地区>

- 宿泊客延べ数が目標値(2019年度)の8割、日帰り利用者数は9割、国立公園定山溪地区の訪日外国人旅行者数が約9割の回復となった。
- 宿泊客の季節変化(最少月と最多月の比)は、目標達成率は約7割であった。
- 訪日外国人旅行者数は、2019年度目標値の約9割に達した。一方で訪日外国人宿泊客延べ数は、2019年度目標値の2割に満たなかった。

#### 1-4. 自然体験活動推進プログラムの取組について

構成員各機関で実施された取組について、推進プログラムの7つの基本方針別に整理を行った。

##### 「基本方針1：支笏湖・定山溪地区の魅力国内外へ周知」に対する取組

ホームページやSNSによる発信、世界的規模の商談会への参加、海外メディアへの掲載や出演に向けた招聘事業等の広報活動が構成員各機関で行われている。また、北海道のアドベンチャートラベル（AT）についても海外へ発信している。

##### 「基本方針2：自然体験プログラムの充実」に対する取組

自然体験を提供するガイド人材の不足、育成が課題となっていることから、スタッフのスキルアップや技術向上、事業者の育成や組織運営等、個人レベルから組織までのさまざまな段階での支援、助成の取組が実施されている。

##### 「基本方針3：国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理」に対する取組

現地における自然体験の情報提供のほか、散策路等の施設の整備や維持管理、適切な利用環境の維持等が進められている。

##### 「基本方針4：サステナブル・ツーリズム(持続可能な観光)の実現」に対する取組

過剰利用や不適切な利用等による自然環境や利用環境の悪化を防ぐためのルールの設定や周知、交通混雑等地域生活への影響軽減、利用施設や交通の脱炭素化等の取組が進められている。サステナブル・ツーリズムへの取組のほか、その内容について旅行者や利用者へ伝えていくことがこれからは求められる。

##### 「基本方針5：多様な滞在スタイルの推進」に対する取組

夜間のプログラム提供、ワーケーション等の利用推進の試みがなされている。

##### 「基本方針6：周辺地域との連携、他の国立公園との連携」に対する取組

国立公園内外の観光施設の連携、定山溪では周辺地域での施設連携が進められている。

##### 「基本方針7：自然体験活動の推進体制の強化」に対する取組

組織体制の見直しの検討、強化が進められているところもある。

#### 1-5. 自然体験活動推進プログラムの今後の取組について

2025年度以降に予定されている取組のうち、新たな動き等が想定されるものを以下に示した。

##### 【支笏湖地区】

- ・ATガイドの育成を目指した研修会の継続実施
- ・氷濤まつりにおけるシャトルバス運行の強化
- ・盤尻地区における自然体験の開発・実現に向けた計画の策定、シャトルバス、シェアサイクルなどの二次交通事業の検討・検証
- ・モラップ線歩道について2025年度に測量・設計を実施し、2026年度以降に再整備工事を実施。
- ・外国人利用に対応した多言語標識等の改修、設計。
- ・車いす利用者向けのカヌー等のコンテンツの普及に努め、より広いお客様に対して支笏湖の魅力を訴求

##### 【定山溪地区】

- ・マーケティングに基づく戦略的な情報発信について検討。
- ・日帰り駐車場の充実に向けて、駐車場の舗装整備を実施のうえ、駐車場の有料化に向けた実証実

験を行う。

- ・「定山溪温泉かわまちづくり計画」に基づき、二見公園及び河畔園地整備に係る設計を実施、整備内容や整備後の利活用及び維持管理体制について、引き続き「定山溪地区(豊平川)かわまちづくり協議会」にて検討する。
- ・札幌中心部と定山溪との間で手荷物当日配送サービスのほか、他の交通手段の利用を促す情報発信等の取組結果を踏まえ、引き続き混雑解消に繋がる取組を検討の上、実施。
- ・DMO 設立に向けた準備体制を構築し、戦略や具体的事業内容等の検討を行い、2025 年度末に候補 DMO 登録を行う予定。

**【全般】**

- ・ガイド事業の経営強化に向けた支援及びガイド向け支援施策活用事例集の作成
- ・あらゆる機会を活用して、DMC の育成を図り、スルーガイド、アクティビティガイド、地域のステークホルダーの連携を強化する。
- ・ゼロカーボンパーク新規登録推進

## 2. 推進プログラム 2030 策定に向けた新たな指標および目標の設定に係る検討調査

### 2-1. 協議会構成員、関係機関へのヒアリング

推進プログラムの改訂、および新たな指標目標設定に向けて、協議会構成員、および支笏湖、定山溪の各部会に参加している関係機関を対象として、ヒアリングを実施し、推進プログラムの7つの基本方針に対する取組課題を整理した。

### 2-2. 協議会構成員、関係機関へのヒアリング結果

#### 7つの基本方針に対する取組課題

<b>1) 支笏湖・定山溪地区の魅力国内外へ周知</b>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・基本方針をブランディング活動と照らし合わせて行動計画を見直す（方針と活動を照査）</li><li>・ビックデータなど汎用性の高いデータがあれば方策検討が容易になるので、入手・活用戦略を検討</li><li>・ユーザーアンケートを根拠に広報その他の取り組みターゲットを設定する方法を検討</li><li>・国立公園は外国人にアピールできるが、日本人へはいまひとつ「ささらない」。</li><li>・閑散期対策としてのオフシーズンの誘客事業を展開、または改善</li></ul>
<b>2) 自然体験プログラムの充実</b>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・人づくりが重要であり、スルーガイドや通訳ガイドの活躍を通じて、地域のなりたちや歴史、文化、自然を伝えられることが大事</li><li>・A Tにおいて「日常生活」が重要な文化体験であることの共通理解が重要</li><li>・全道的にナイトタイムエコノミーの事業数が少なく、課題分析が必要</li><li>・観光化・市場化のみが選択肢ではなく、環境教育などの分野での資源活用が、資源の特性にマッチしているケースあり</li><li>・副業ガイドの動きあり、そのパワーの活用が大事</li><li>・ガイドや事業者への支援として、「稼ぐ」ための経営的支援も重要</li></ul>
<b>3) 国立公園にふさわしい自然体験フィールドの充実とその管理</b>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ハイキングできる場所の問い合わせ多数、潜在的なニーズ大</li><li>・(特定の1者ではなく) 行政機関、民間などの複合体が責任と役割を分担することで、施設等の管理負担が減じ、事業の実行性や継続性の向上ができる</li><li>・外来種対策等の生態系保全の取り組みを計画に盛り込む</li><li>・整備と管理のあるべき水準を想定する</li><li>・土地所有者や管理者との調整が必要なケースがあるが、利用の計画を明確にして権限者と調整することが重要</li><li>・街中の建物も景観を構成する要素であり、景観の維持や景観形成を持続</li><li>・国立公園に限らずとも、クマ等の野生動物対策、および携帯電話のエリア外における対応は必要</li></ul>
<b>4) サステナブル・ツーリズム(持続可能な観光)の実現</b>	
	<ul style="list-style-type: none"><li>・本物の自然に触れることをメッセージとし、50年後も同じ目的で訪れてもらえることをめざす</li><li>・水辺だけでなく、山・里の利用についてもルールの設定と周知が大事</li><li>・保全活動に関与してくれる(くれている)事業者をピックアップしていくことが大事</li><li>・利用の平準化は地域の共通課題であるが、短期での実現が困難であり、継続して取り組むことが大事</li><li>・一般利用者の駐車場の確保と交通アクセスの改善を一体的に進めたい</li><li>・サステナブルな取組は外国人に注目されるかもしれないが、日本人への影響力は小さい</li><li>・認定ガイド帯同を条件とした限定利用の検討を期待</li><li>・道民割がなくとも道民が近郊の観光をできることを維持していくことは重要</li></ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・系統接続がなく重油で自家発電している施設へ、燃料の脱炭素化を推進</li> <li>・登山の駐車車両が多く緊急車両が通過できないオーバーツーリズム的課題</li> </ul>
<b>5) 多様な滞在スタイルの推進</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(雪以外で) 一週間以上のロングステイに対応できるメニューの幅(選択肢)を作ることが大事</li> <li>・ビジネスステイの合間にも利用できるものがあれば間口が広がる</li> </ul>
<b>6) 周辺地域との連携、他の国立公園との連携</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定山溪から支笏湖に遊びにいけるような連携事業の実施は大事</li> <li>・羊蹄山などの周辺エリアまで足を運ぶことが可能になれば、その場所での宿泊価値があがる</li> <li>・ATは、Aという自然とBという自然をどういうルートで見せるかという発想でみていく</li> <li>・日高山脈襟裳十勝国立公園の指定にともない、道内7つの国立公園をPR</li> </ul>
<b>7) 自然体験活動の推進体制の強化</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体と事業者をつなぐ中間支援団体の存在が大事、合意形成も担える中間支援団体が望ましい</li> <li>・ガイドの数もさることながら、地域コーディネーターが存在することが大事</li> <li>・ガイドを付けることの効果PRが大事(ガイドを付けた時と付けなかった時の違いを表現)</li> <li>・ガイド事業者はマネジメント(経営の最適化)のノウハウを習得することが大事</li> <li>・宿泊税の導入をめざす</li> </ul>

## 2-3. 推進プログラム 2030 の新たな指標および目標案

推進プログラムの取組内容をもとに、新たな指標案として成果指標と取組指標に分けて設定することが考えられる。

成果指標：基本方針に基づいた構成員や関係機関が実施する取組の総体的な成果

取組指標：具体的な取組の状況、過程を示すもの

### 【成果指標案】

成果指標案は、具体的な目標値を設定せず、増加や向上をめざす。また、現行指標の参考比較値考値は、関連施設等の状況把握のための指標としている。

	指標項目	目標	設定理由	対応する基本方針
指標 1	宿泊客延べ数 (統計データ/従来指標)	増加	国立公園の中核拠点での利用状況、地域観光経済への効果を示すもの	全般
指標 2	外国人宿泊客延べ数 (統計データ/従来指標)	把握	外国人利用の動向、経済効果を示すもの	全般/(1)
指標 3	宿泊客延べ数の繁閑比 (統計データより算出/従来指標)	平準化	利用の平準化、季節変動を示すもの (総数維持または増加における平準化)	全般/(5)
指標 4	国立公園主要施設等の利用者数 (統計データ/従来参考比較値等) 定山溪地区候補： 豊平峡、定山溪観光案内所 支笏湖地区候補： 支笏湖 VC、樽前山 第五駐車場（みなもあパーク）	把握	国立公園における自然体験活動の状況を示すもの	(2)(3)
指標 5	平均滞在日数 (統計データより算出又はアンケート調査)	増加	来訪の目的化、滞在拠点化を示すもの	(2)(3)(4)(5)
指標 6	リピータ率・再訪率 (アンケート調査による)	向上	来訪の目的化、満足度を示すもの	全般
指標 7	国立公園の認知度 (アンケート調査による)	向上	国立公園の知名度を示すもの	(1)
指標 8	自然体験活動参加率 (アンケート調査による)	向上	自然体験活動の状況を示すもの	(2)(3)(4)
指標 9	地域の受入満足度 (アンケート調査による)	向上	利用者増加等による地域の生活環境への影響の状況を示すもの	(4)

### ② 取組指標案

構成員や関係機関の取組の中で、2030年に向けて取組課題やテーマ等を1つ程度掲げていただき、2030年に向けての取組評価を毎年度、検討、計画、実施、結果、結果検討、改善等の取組のプロセス、段階を評価する方法が考えられる。

(例) 2030年までの取組目標：ガイド人材の育成とした場合の例

	実施内容	進捗評価
2026年度	ガイド研修を検討	検討(Plan)
2027年度	ガイド研修を検討	検討・計画(Plan)
2028年度	ガイド研修を開催(実施)(●回開催、◎●人参加)	実施、結果(Do)
2029年度	ガイド研修を開催(実施)参加者アンケート実施	実施、結果検討(Do、Check)
2030年度	ガイド研修を開催(実施)、課題まとめ、改善	結果検討、改善(Check、Action)

### 3. 自然体験活動促進計画の策定に向けた検討調査

自然公園法の改正により、自然体験活動促進計画を策定し、国立公園が有する自然資源の特性を踏まえた質の高い自然体験活動の提供を、地域一体で取り組む仕組みが創設された。

定山溪地区では温泉街の中心部を流れる豊平川において、自然体験活動が活発になる中で、ハードとソフトのまちづくり事業が進められている。自然体験活動の事業者の連携が進み、適正な利用のためルール整備等の取組とまちづくりのソフト事業が合体することにより自然体験活動促進計画の策定が期待される。

本業務では、定山溪地区の豊平川で活動する自然体験活動事業者の連携と適正な利用を推進するため、豊平川での活動情報や課題を共有するワークショップを開催し、事業者の連携支援を行なった。

#### 定山溪地区におけるワークショップ(意見交換会)の概要

開催目的	定山溪地区の水辺を利用する自然体験活動事業者が互いにその活動状況を共有し、安全面や環境保全、利用面（快適性等）における課題について意見交換を行なう
対象	豊平川周辺でアクティビティを提供する自然体験活動事業者(6者参加)、定山溪観光協会 札幌市等、行政機関がオブザーバー参加
開催時期・場所	2024年10月29日 13:30～15:30 / 定山溪街づくりセンター
内容	・参加事業者のアクティビティ活動の共有 ・豊平川の自然体験活動における安全面、環境保全、利用面（快適性等）から感じている課題、対応策に関する意見交換